

# 2018年度 事業報告書

学校法人 夙川学院

# I. 事業の概要

## 1. 学校法人夙川学院建学の精神

夙川学院は、1880年(明治13年)、御影弓場の地に故増谷かめによって創設された裁縫塾を母体としています。

当時は女子の教育についての関心が低かったのですが、かめは、女子教育の必要性を痛感し、『婦徳の高い、堅実な家庭婦人の養成』を目指し、裁縫塾を創設しました。以後、本学院は校名を変遷しつつも確実に発展を遂げてきました。なかでも本校教育の一大転換期となったのは、終戦後、御影魚崎の地から、西宮夙川の地に移転した時です。校名を増谷高等女学校から夙川学院中学・高等学校と改称し、学校教育の基礎となる教育精神をキリスト教に求め、キリスト教精神を柱として新たなスタートを切りました。

現在、夙川学院短期大学、夙川学院中学校、夙川学院高等学校、夙川学院短期大学付属幼稚園を併せもつ総合教育機関となりました。その建学の精神の主たるところである「徳のある人間を育成する」という精神は現在の組織に脈々と受け継がれています。

教育の目指すところは、共通して「知」「徳」「体」すべてにバランスのとれた全人教育です。またグローバル化した現代社会では、国際感覚を持った人間の育成ということも重要であることも鑑みて、それぞれの組織がそれぞれの特徴を最大限生かしながら上記の目標達成に邁進してきました。

本学院は教育の目的をより明確にするために、2015年度に寄附行為の第3条を「イエス・キリストの教えを教育の根本とし、正義と平和を愛する徳の高い人を育てることを目的とする」と変更し、院長および理事現員総数の3分の1以上をキリスト者とするクリスチャン条項を新たに定めました。また、一般社団法人キリスト教学校教育同盟に加盟しました。

なお、近年は学院の経営合理化の一環としてキャンパス統合を推進し、2013年度に短期大学が、2016年度に中学・高等学校が神戸市中央区のポートア

일랜드キャンパスに移転しました。

2018年度はさらに、中学校・高等学校の学校法人須磨学園への設置者変更が決定し、短期大学は校名を「神戸教育短期大学」と改め、長田区西山町へ、中学校・高等学校は長田区会下山町へと移転することになりました。

### (1) 各設置校の教育理念

#### 短期大学

短期大学の教育理念は、「愛と誠実・清新な学識」です。これは、学校法人夙川学院の寄付行為第3条に基づいたもので、夙川学院の前身である増谷裁縫塾創始者の教育方針と戦後導入したキリスト教精神に基づく人格形成を広く反映したのもでもあります。

短期大学の教育方針は、「愛と誠実・清新な学識」の教育理念の下に、広い視野と自己表現力ならびに精神的自立心の涵養につながる教育を行うというものです。

そのために、2015年度に見直した3つのポリシー(アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー)を本学ホームページや大学案内、学生手帳などに掲げ、機会ある毎に学生に伝えていくなど、広く周知するように努めています。また、この教育方針と3つのポリシーを実践するために、入学から卒業(学位授与)までを見通したカリキュラムを編成したカリキュラムマップも再確認し、ディプロマポリシーに照らしたシラバスの作成を行いました。

また、長田学舎への移転を契機として、2020年度よりの学科名(「こども学科」へ)と、定員(130名から100名へ)の変更を予定しています。

#### 高等学校

『自分らしさを育む「個性」を伸ばす。「得意」を教育目標に、①ダブルスクール不要の学び②基礎から確実に積み上げる③新しい入試制度に対応するカリキュラム④英語力を磨く⑤部活動と両立する学びを展開しました。

放課後、各教科で習熟度に合わせた特別講座を開講し、生徒は希望する講座を自分で選択して受講

しました。

また、カリキュラムも2020年度からの大学入試制度改革に対応するために求められる主体性・多様性・協働性を身につけるため、英語力を磨く・キャリア教育・個別指導・受験対策などを行いました。

### 中学校

高等学校で掲げる教育目標と同様の教育を展開するとともに、6年一貫でなければできない教育として「タイムマネジメント教育」を取り入れ、自分自身で計画を立て、実行する力を養う教育を展開しました。他に、「特別教育」を実施し、レベルに合わせて、基礎と発展の2種類から選択でき、希望によりどの講座でも受講できる講座を開講しました。

### 付属幼稚園

明るく健やかな子ども、美しい心の子ども、寛容な心を持つ子どもに育てます。

## (2) 各設置校のキリスト教教育活動

### 短期大学

2018年度も昨年度同様に毎週月曜日と金曜日の2日間礼拝を行い、学生が奏楽を担当することが定着し、学生と教職員が聖書の教えに耳を傾けました。クリスマス前の4週前からイエス・キリストの降誕を待ち望む期間であるアドベントの初日(12月3日)には、イルミネーション点灯式を行い、ポートアイランドキャンパスに通う学生たちが参加しました。12月14日には、付属幼稚園による聖誕劇を鑑賞し、クリスマス礼拝を開催しました。また、クリスマス献金や本学施設実習で協力を得ている社会福祉法人一羊会への寄付金を集める活動も行いました。



### 中学校・高等学校

2016年度より、本格的に取り組んできた「キリスト教教育」を継続し、週2回礼拝を行い、「讃美歌練習」「聖書研究」「全校礼拝」と内容ある1年を過ごすことが出来ました。また、年に5回の特別礼拝を継続しました。

### 付属幼稚園

「新キリスト教保育指針」に基づいて、保育のカリキュラムを作成し、「年主題」「月主題」「聖句」「こどもさんびか」を保育活動に取り入れています。

「年主題」を柱として保育を実践することにより保育者の具体的な考えが深まり、子どもの個々の発育、発達、個性の違いを認めながら工夫を加えることにより、子どもの生活が豊かになりました。

週一回礼拝を受けることで「聞く力」を養うとともに、感謝の気持ちを育み「ありがとう」が言える子どもになりました。また、日常のお祈りを通じて常に神さまを身近に感じることができます。

クリスマス礼拝では年長組は聖誕劇でクリスマスの日の出来ごとを伝える役目を果たすことができました。



## 2. 教育力向上及び研究に係る事業

### 短期大学

#### ① 教育内容及びカリキュラムの内容

兵庫県では本学のみが短期大学の2年間で保育士資格、小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状の3つの資格・免許を取得できます。

また、近年の経済情勢を反映して、経済的理由から進学を断念する志望者や学費を貯蓄してから入学してくる学生もいることから、アルバイト等しながら就学できる道を開くべく、2014年度入学生より、長期履修制度(3年制)を導入しました。これは2年間の授業料で3年間かけて卒業する制度で、資格・免許の取得のために過密カリキュラムによってアルバイトをすることが困難な児童教育学科学生ならではの負の特性に配慮したものです。また、斡旋業者を介して、保育園等をアルバイト先として紹介することで、実践力を身につけた質の高い学生の養成が行えることにもなりました。2016年度は12名、2017年度は18名、2018年度も18名と保育園及び児童館でのアルバイト希望があり、全員が保育園及び児童館でのアルバイトに従事することができました。

なお、2016年度の学生募集からは経済的に就学困難な学生支援という意図だけでなく、保育・教育現場でのアルバイトを通じて在学中から実務経験を積みながら、じっくりと学ぶ学生も募集対象にしました。併せて、この制度は重点クラブ(空手部、吹奏楽部)の入学生にも適用し、特技を持った保育者の養成として魅力あるものです。

2017年度の入学者数は143名(内、男子11名、長期履修生65名(空手道部3名、吹奏楽部1名))でしたが、2018年度は127名(内、男子7名、長期履修生68名(空手道部3名、吹奏楽部5名))となりました。新入学生では、2年制の学生が約46パーセント、長期履修生が約54パーセントとなり、長期履修生の割合が2年制学生を上回りました。近年の学生の学び方、ライフスタイルに合致した制度と考えています。

3つの資格・免許取得という特徴に加え、本学独自科目として「子ども学ゼミ」を開講し、在学生・受験生

からも好評を得ています。これは、多彩な分野のユニットから自分の興味・関心のある分野を選び、さらにその技術を身につけることにより、自分の得意分野を生かすことのできる付加価値を有した教育者・保育者を育成することを目指したものです。赤ちゃんの心理をより深く学んだ保育者、児童英語を担当できる幼稚園や幼児教室の先生、スポーツジムの幼児向けインストラクター、自作の絵本を読み聞かせできる保育者など、就職の幅を広げることも期待しています。2018年度のゼミ数は14ゼミを開講しました。この子ども学ゼミは通年科目として位置付けられていましたが、学生の諸事情で単位が認定されなかった場合や半期の休学をした場合でも、1年間の再履修が必要となります。学生の時間的・経済的負担を考慮して、今年度入学生より、通年科目であっても半期ごとに単位認定する履修制度に変更しました。子ども学ゼミA、B、C、Dとして、半期ごとにテーマを掲げた科目とし、その中で通年にわたって継続的に学ぶ必要のある内容に関しては、通年でひとつのテーマを学ぶというように選択肢をより多彩なものとししました。

免許資格取得に不可欠である「実習」は、事前事後指導をきめ細かく行っています。また、幼稚園・小学校教育実習は、在学期間2年間の学生は2回生で、長期履修生は3回生でいずれも4週間の実習を行っています。実習は付属幼稚園や受け入れ承諾園、公立学校園との連携を図り実施し、実習後の事後指導では、実習校園からの評価表を基に、教職・保育職への意識の向上を促すよう指導しています。

教養教育科目のスリム化を行い、児童教育関連科目に絞り科目数を削減しました。しかし、神戸ポートアイランド4大学連携単位互換制度、放送大学など、大学間交流に積極的にかかわるためにも、単位互換科目としての教養教育科目は維持しています。

また、2015年度より、キリスト教教育を本格的に導入したことに伴い、「キリスト教学A」、「キリスト教学B」(選択科目)を教養教育科目に加えました。2018年度は、「キリスト教学」の1科目を卒業必修とし、選択科目として「キリスト教と人間」「キリスト教と芸術」

の2科目を開講しました。

#### ◆高大連携講座

夙川学院高等学校のポーアイキャンパス移転を機に、高大連携をより密にするために、従来行ってきた高大連携講座の科目数を大幅に増やし、制度の充実を図りました。具体的には、2016年度の夙川学院高等学校普通科プリスクールコースの入学生を対象に、短期大学の先取り授業の科目数を12科目とし、2017年度には、高校2年生を対象に前後期3科目ずつの6科目を実施しました。2018年度もプリスクールコースの高校2年生、3年生を対象に前後期各6科目の授業を実施し、プリスクールの授業態勢が完成しました。これらの科目は、本学教員が授業を行い、入学後に単位が認定されるシステムです。

また、兵庫県立西宮甲山高等学校とも高大連携講座の提携をしており、2018年度も、5月31日～11月22日までの木曜日(計4回)に講座を開きました。これは同高等学校に教員が出向き、教育総合類型2年生を対象に児童教育に対する理解を深めるものですが、特に最後の回は移転先の長田学舎に高校生を招待し、新学舎の披露も行いました。

さらに、2015年度に高大連携の協定書を交わした兵庫大学付属須磨ノ浦高等学校でも高大連携講座を行いました。2017年度は高校2年生、3年生の学年ごとに前後期1科目ずつの合計4科目を授業しました。2018年度は、高校のスケジュールに合わせ、高校2年生、3年生の学年ごとに前期1科目ずつ、後期は2学年合同で1科目を開講しました。これらの科目は、本学教員が提携高校先にて授業を行い、入学後に単位が認定される、先取り授業のシステムになっています。

#### ② FD(教育内容・資質向上)の取組

今年度も授業評価アンケートを年2回実施し、アンケート結果ならびに授業担当者のコメントを学内で公表しています。昨年度と同様に下記の設問文で実施しました。

- ①あなたは、この授業を意欲的に受けた。
- ②あなたは、この授業の事前・事後学習を行った。
- ③この授業はあなたにとって理解しやすかった。
- ④この授業は講義概要(シラバス)に沿った内容であった。
- ⑤この授業の進み方や課題の量は自分にとって適切であった。
- ⑥教員の話し方は聞きやすく、声の大きさも適切であった。
- ⑦学生に対して柔軟な配慮が見られた。
- ⑧教員の学生への対応は公平に適切に配慮されていた。
- ⑨授業は時間通りに行われた。
- ⑩学生の私語や居眠りなどに対応し、授業にふさわしい雰囲気が保たれていた。
- ⑪プリントや視聴覚教材などの補助教材が適切に利用された。
- ⑫授業に必要な教室、施設、設備は整っていた。
- ⑬この授業の受講者数は適切であった。
- ⑭この授業を受講して、あなたにとって新しい知識あるいは技術を得ることができた。
- ⑮総合的に判断して、この授業は満足できるものであった。
- ⑯この授業に対するコメント

7月9日～8月4日に実施した前期授業評価アンケートでは実施科目数は121科目、回答数は3686でした。学生は上記①～⑯の設問について、『とてもそう思う、ややそう思う、あまり思わない、全く思わない』を選択して回答、⑯は自由記述になっています。『とてもそう思う』が4点、『ややそう思う』が3点、『あまり思わない』が2点、『全く思わない』が1点とした集計結果からは、回答全体平均が3.48点、⑯の「総合的に判断して、この授業は満足できるものであった。」という設問結果は3.49点であり、概ね全体の授業に対して満足しているという結果がわかります。今後の課題としては設問②「あなたは、この授業の事前・事後学習を行った。」の平均結果は3.03点と全設問中最低点でした。今後の学修の課題事項として

学科で検討していきます。

また、情報機器を使ってより効率のよい学習環境を整備していくための布石として、1科目のみ試験的にweb(google form)によるアンケートを実施しました。17名中16名がQRコードによる読み取りを行い、1名が紙面にて回答をしました。特に混乱もなく実施できて、教員へのフィードバックにおいても当日中に行えて、集計作業も大幅に軽減されることがわかりました。

昨年度より設置した「ご意見箱」の今年度の投書は計6通でした(昨年度計28通)。投書内容により各管轄部門に依頼し対応をしています。学生の日ごろの声を聞きやすくし、その都度対処することで迅速な対応ができるように、自由にいつでも投書してもらえるように設置していますが、匿名で投書する必要なく問題が解決されているのか、「ご意見箱」の周知が至っていないのか、或いは、使いにくいツールであるのかを今後の検討課題としていきます。

また、研究委員会から発行される研究紀要とは別に、ファカルティ・ディベロップメント委員会では、教育に関する実践を掲載した『教育実践研究紀要』を発行しています。今年度は第13号を3月10日に刊行しました。7本の論文を掲載して授業研究実践の成果を公表しています。

一昨年からはじめた公開授業を今年度も実施しました。本学教員の授業が見学対象で、本学教職員及び非常勤講師が授業を見学することができます。今年度は後期の11月28日から12月11日までの期間で見学対象授業と見学希望者を募りました。今年度は18の授業が公開授業となり、専任教員は全員参加となりました。公開授業を始めて3年目となり、更に教員相互に有意義な活動とするために、1月に「公開授業についてのアンケート」を実施して、この取り組みについての教員の意見を集約しました。「非常勤の先生方の授業も見学対象にする」、「公開授業期間を長くする」の他、「授業が重なり、見学することが難しい」「見学したい授業と時間帯が合わない」など、相互見学のための日程や時間設定が今後の検

討課題となっています。

3月1日に神戸学院大学にて開催されたポートアイランド4大学合同FDトップセミナー「大学ブランドの向上に向けて～学内にデータをどう見せるか?～」愛媛大学学長特別補佐(教育企画、能力開発)・教育・学生支援機構副機構長・教育企画室長の小林直人氏による研修会に参加して、大学の様々なデータを学内外に公表する際の有力性と危険性について学びました。

### ③キャリア教育・支援の推進

1 回生前期に「キャリアプランニングの基礎」で自分らしく生きることや社会で働く意味を考え、保育士や幼稚園教諭、小学校教諭の職業について概観する機会を持ち、それと同時に基礎学力の強化対策も行いました。また1回生後期には「キャリアスタディA」を開講し、キャリア教育に精通した外部講師による「自己分析」「履歴書の書き方」「面接練習」など、就職に対しての意識を高める実践的な授業を行いました。また、保育園、幼稚園の現場の話を聴く機会として、園長先生による講演も授業内で行いました。

公立試験対策としては「キャリアスタディB」「キャリアスタディC」を開講し、各科目に関しての公務員試験での頻出項目をピックアップして演習が行われました。また、いつでも個人で受験勉強ができるように学習支援センターを設置し、学生の要望に合わせた指導をしています。

また、2017年度より東京アカデミーとの連携のもと短期集中試験対策講座を開講し、公務員試験を志す学生に支援を行っています。2019年度公務員試験に向けて、2019年3月には、講習会場を学内から東京アカデミー三宮校に移し、学生がさらに多くの公立就職希望者の中で切磋琢磨して、目的達成が適うようにしました。

### ◆園OB・OG講演会

幼保就職を目指す2回生に向け、幼稚園教諭や保育士として働く卒業生によるOB・OG講演会を2回実施しました。7月には、「園選びの着眼点や採用試験までに準備すること等」を、2月には



「社会人としての心構えや仕事への取り組み方等」をテーマに先輩の話を聞きました。就職を控えた2回生にとっては、現場で活躍する先輩の生の声を聞くことで、子どもと関わる仕事の素晴らしさを再認識し、授業に取り組む姿勢や職業意識を高める機会となりました。

#### ◆清掃研修

2011年度から、教育実習前の児童教育学科1回生を対象として清掃研修を毎年行っています。

近年、雑巾を絞れない、ほうきを使うことができない保育者も増えているとの現場の声を聞き、清掃のプロによる具体的な指導を受けたうえで実習に臨んでいます。この研修により、基本的な清掃用具の使い方や、簡単に汚れを落とす清掃のコツなどを学び、実習現場で役立てることができました。

#### ◆就職支援

就職担当の職員が学生の希望に応じて随時きめ細やかな支援を行っています。また全教員が学生の希望進路や就職活動の状況を把握できるよう情報共有し、多方面から学生の就職支援を行う体制をとっています。2016年度より就職活動に対する意識付けのために、1回生の後期授業の終わりに2回生が就職活動の体験を語る場を設けました。一番身近な先輩の体験を聞くことで、1回生にとっては就職活動をイメージしやすくなりました。

また、大学教員および学務部職員が就職先の園や施設を訪問し卒業生の現状把握に努め、今後の就職支援や求められる人材の理解と教育の向上に活かしています。

### ④ 付属施設の事業

#### ◆図書館

夙川学院高等学校・中学校のポートアイランド学舎への移転に伴い、図書館は短期大学と高等学校・中学校との共用館となり、短期大学の司書1名と高等学校・中学校の職員1名で運営されています。高等学校・中学校は1万冊余の図書を移設しましたが、図書館情報整理のシステムが異なっていたため、蔵書登録を短大の利用システムである情報館に移行する

作業がまだ終わっていません。高校からの移転図書は未だ利用できる状態にはなっていませんが、中高生の図書館利用は、短期大学図書により活発に行われています。

短期大学図書館としては、児童教育学科の特色を活かし、絵本や児童書・絵本研究書など絵本関連資料のさらなる充実にも力を入れるとともに、公立園や小学校を目指す学生のために受験対策問題集の整備や教育要領・保育所指針等の改訂に伴う解説書の充実にも務めています。

蔵書数約60,513冊のうち、13,167冊(和書12,776洋書391冊)が絵本資料です(2019年3月31日現在)。入学前学習の一環で行う「新入生推薦本」は図書館に展示し、毎年蔵書購入の資料としています。



また、ポーアイ4大学(神戸学院大学、神戸女子大学・短期大学、兵庫医療大学)を巡る、4大学合同の企画展示に例年絵本作家をテーマとし、2018年度は安野光雅を特集しています。さらに、大学祭では、絵本の読み聞かせ大会を実施し、来場してくれた子ども達にも好評でした。



学生への利用サービスの一環として、ノートパソコンの貸出窓口を図書館にも設置していますが、年間



305件の貸出がありました。

#### ◆しゅくたん広場

西宮市からの委託事業として2009年度学内に「しゅくたん広場」を開設し、主に0歳から3歳までの乳幼児の子育て支援を行ってきました。2013年度の短期大学移転に伴い、場所を夙川学院中学・高等学校敷地内(西宮市神園町・家政館)に移設することにより、夙川学院高校生との次世代交流がさらに密になりました。2016年度には付属幼稚園内の保育室にて開室することとなり異世代交流も深まり、地域に根ざした子育て支援の場として、貴重な存在となっています。

しゅくたん広場は2018年度、兵庫県より「平成30年度ひょうご子育て応援賞」を受賞しました。長年の地域子育て支援拠点における子育て支援に対しての功績が評価されました。本大学教員による講習会を開催するなど、大学の専門性を生かした事業を実施している点も評価されています。10月30日に兵庫県公館で授賞式が行われ表彰状をいただきました。



2018年度は、総利用者数3,538名、開室から2018年度までの累計利用者数は45,710名、2018年度登録家族数150組、累計登録家族数1,904組となりました。大学生や社会人等のボランティア9名の参加がありました。

学内外の講師を招き、毎月定期的に講座を開き、ベビーマッサージや子どもの食に関わること等、啓発的な内容やリフレッシュを促すテーマで多面的に子育てに話題を提供しています。2018年度も異年齢児童との交流、祖父母世代との交流、父親を対象と

した講座が充実して計15回行われました。幅広い世代と発展的に地域の子育て世代を元気づける場となるよう取り組んでいます。

2月27日には「平成30年度西宮市地域子育て支援拠点事業連絡協議会連絡調整会議」に参加し、西宮市の子育て事業実施状況を周知し、今後西宮市ともますます連携をとって地域に役立つ広場を目指していきます。



#### ◆子育て広場 のびのびにーの

神戸市地域子育て支援拠点事業として二宮市場内に2016年10月に開室し3年目を迎えました。2018年度は、総利用者数3,099名、開室から2018年度までの累計利用者数は6,985名、2018年度登録家族数103組、累計登録家族数347組となりました。社会人のボランティア12名の参加がありました。毎月の定期的な講座も「おいしいおだしのとり方」や「わらべうたベビーマッサージ」や「子どもの食について」など、多彩な内容で子育ての情報を発信しています。また、保育アドバイザーによるお誕生日会や季節・行事に合わせた催しも充実しています。市場内という立地から、より地域や日常生活に密着した広場として子育て親子の集いの場となっています。

#### ⑤研究活動支援

##### ◆文部科学省の競争的資金(科学研究費補助金)への応募・獲得

2018年度は、基盤研究(C)に1件の応募があり、不採択でした。基盤研究(C)「平安初期歌合の研究」(2015年度～2019年度)が4年目を迎えました。



## 高等学校

### ①教育課程の充実

『自分らしさを育む「個性」を伸ばす。「得意」教育目標の実現に向けて、次の4コースで教育課程の充実を図りました。

#### ◇アカデミックコース(特進コース)

難関私立大学現役合格を目指し、学習に取り組みました。基礎学力に加え、興味のある分野に学究的に取り組み、より広く、より深く学習しました。

高校生の現在の関心事および将来への夢、そして保護者の期待を基に将来の進学、人生設計について「自分らしい生き方」が選択できるような教育をしました。

#### ◇リベラルアーツコース(総合コース)

キリスト教教育を柱に、総合的な人格形成を目指しました。生きるための力を身につけ、基礎的な教養と、論理的な思考力の習得に重点を置き、日本人としてのアイデンティティーを確立する教育を行いました。

さまざま学校生活での経験を通じて、自分に合った進路を見つけていきました。

#### ◇プリスクールコース(短大進学コース)

夙川学院短期大学児童教育学科への内部進学が前提のコースで、「5年で3つの資格・免許」をキャッチフレーズに、高校2年次から短期大学の授業を履修することで、12科目(最大で24単位)の単位認定が受けられるカリキュラムにしました。そのため、入学者の目的意識が明確で、学習にもより力が入りました。また、高校の授業でもピアノ・リズム体操・保育実習・造形等、専門的な授業を実施しました。

#### ◇グローバルアスリートコース(体育コース)

国際的に活躍できるアスリートの育成を目指し、競技力向上に加えて、語学・文化・スポーツ科学・理論なども学習しました。

専門的な授業は専門の教員があたり、より確かな理論と特性について学ぶことが出来ました。

「スポーツ総合演習」においては、クラブ活動と連動しており、競技力向上に成果をあげました。

スポーツを全般的に学ぶことにより、人生におけるスポーツの価値や文化としてのスポーツを学ぶことができました。

## 中学校

一人ひとりの可能性を最大限に伸ばすため、放課後だけでなく、朝、昼休み、放課後など生徒の時間に合わせて、熱心な個別指導を行いました。

また、グローバルに活躍する人を育てる教育として、英語教育に力をいれ、他の教科と英語の語学学習を統合したアプローチを取り入れました。教科内容を題材に英語の4技能を高めることができ、生徒たちの発信能力を高め、英語教育の実質向上を図りました。

## 中学校・高等学校

2018年度の体育祭は、県立総合体育館で行ないました。校庭で行う開放感はありませんがエアコンが利き、演技や競技は、快適に行なうことができました。また、観覧席が階段状となっているので、演技や競技がたいへん見やすく、保護者にも満足いただけました。結果ではなく、そこまでの練習や団結といったプロセスの大切さを学べた行事となりました。

2018年度の芸術鑑賞会は、本校アリーナに大阪交響楽団の方に来ていただき、オーケストラの生演奏を披露していただきました。目の前で聞く迫力のある演奏に、生徒達も聞き入っていました。





## 付属幼稚園

### ◆各学年の目標

教育目標が幼稚園修了の間に達成できるように年齢ごとの指導に重点をおいて各保育年別の目標をもって保育実践しました。様々な行事においては、当日の結果にとらわれるのではなく、過程を大切に保育することを心がけています。

満三歳児組：園生活を楽しみながら感情の安定を図り、身の自立を促しました。

年少組：遊びを通して基本的な生活習慣を身につけ、協力してみんなと遊べるようにしました。

年中組：集団生活の楽しさを体験する中で、きまりを守ろうとする態度や豊かな情操を育みました。

年長組：創造性を豊かにし自主的、協力的に活動すると共に、体育力の増進を図り何事にも意欲的に取り組む姿勢を育みました。

### ◆園外保育

心身共に健やかな成長ができるよう、園外保育に積極的に取り組み、足腰の鍛錬や自然事象に触れる機会を多く持ちました。また個々の発達や体力に合わせた援助として山道では自分のペースで歩けるよう工夫しました。

年少組 飯岩神社(徒歩)

栗ひろい(観光バス利用)

年中組 北山植物園(徒歩)

芋ほり(観光バス利用)

年長組 大阪キッズプラザ(公共交通機関利用)

いちご狩り(観光バス利用)、

ぶどう狩り(観光バス利用)

六甲山人工スキー場そり遊び(観光バス利用)



(年長組 ぶどう狩り)

### ◆運動会

新学年よりあそびの中で、お稽古を重ねていき、2学期に入ると各学年、それぞれのカラーに合わせたダンスや、競技を展開していきます。2018年度はお天気にも恵まれ、神原小学校の運動場をお借りし、たくさんの方々に、日頃の取り組みを見ていただきました。子どもたちの精一杯のがんばりや成長を実感できる一日となり、また、保護者の方や卒園児、未就園児のプログラムにも多くの方々に参加していただき、アットホームな運動会でもありました。



(付属幼稚園恒例のパン食い競争)

### ◆「英語遊び」の導入

2018年度も、年中・年長組では、「英語遊び」を導入しました。週1回、水曜日にネイティブ講師が一日中幼稚園に滞在し、子どもたちと礼拝や誕生会などと一緒に過ごすなど、英語遊びだけでなく保育の中でより密に過ごすことができました。付帯事業として放課後、年少クラスから参加できる「イングリッシュパーティランド」も引き続き好評で多くの園児が受講しました。早くから英語に親しみ遊びながら学ぶことで自然と英語を身につけていくことや、異文化への興味関心が持てるようにしています。

### ◆「預かり保育(にこちゃんルーム)」の実施

保護者のニーズに対応し、2012年度より行っている預かり保育を2018年度も、保育終了後から午後6時まで実施しました。学年の枠を超え、園庭遊びを中心に楽しく過ごすことをねらいとしています。室内に於いても預かり保育のみで経験できる塗り絵や、



ゲーム等の玩具を用意して日常の保育との差別化を図りました。

2018年4月から2019年3月まで年間を通じて、114日実施し、延べ利用者数2162名、1日あたり19名でした。

子どもたちが園生活に慣れた頃から利用者が増え、保護者からも「安心して預けられる」と言っていたが、子どもたちからも「楽しかった、もっと遊びたい」と言ってもらえました。

#### ◆付帯事業の実施

保護者・子どものニーズに応えると共に、付属幼稚園の特色をアピールするため、2012年度より付帯事業として各種講座を実施しました。毎月開催の一般講座として「イングリッシュパーティーランド」「こどもアトリエ」「楽しいバレエ」などバラエティに富んだ内容で、それぞれ参加した子どもたちは、大変楽しんで活動することができました。



### 3. 学生・生徒等の支援に係る事業

#### (1) 課外活動支援の推進

##### 短期大学

在学期間2年間の学生は、限られた修業年限の中で資格及び免許取得を目指すため、授業が過密となっています。また、在学期間3年間の長期履修生も重点支援クラブの空手道部と吹奏楽部は部活動に、多くの時間を費やしそれ以外の学生の多くは経済的な課題を抱え、アルバイトをしております。そのため、課外活動を自主的に行なうことは難しい環境になっています。

この状況下において、授業等で身につけた知識や

技能を地域貢献や大学の魅力アップに繋がる目的をもつ活動及び団体に対して、課外・自主活動奨学金制度(半期ごと)を設け、支援しています。

昨年度に引き続き今年度も前期、後期ともに、「地域活性化プロジェクト～エネルギー～」が課外・自主活動奨学金助成対象団体となりました。この団体は、地域の子どものたちと触れ合うことで、学生自ら課題を見つけ有意義な保育経験を積むことをテーマとして地域交流活動をしています。昨年は、児童教育学科という特色を活かし、子どもたちに体験活動の場を提供するとともに、子ども・保護者・地域住民(主に高齢者)の世代間交流を促進する活動を展開しました。活動としては運動会、流しそうめん、水遊び、音楽遊びなどの学内でのイベントの他、西宮市で行われたサマーフェスティバル・イン越木岩への出店を行い、参加者からも好評をいただいています。

学生の自治組織である学友会は、今年度も全学生対象の球技大会(年2回)や秋の凧凧祭(大学祭)を開催し、多数の学生が参加し交流しました。

また、1月30日の学生大会において、2014年に施行された学友会会則の一部を改定しました。主な変更は2019年4月の校名変更に伴う名称「神戸教育短期大学(旧 夙川学院短期大学)」の部分と、単学科に応じた会則に修正するための諸事項です。具体的には、本会に置く役員は「会長1名、副会長1名(旧2名)、書記1名、会計1名(旧2名)課外活動団体統括1名」となりました。また、学生の大きなイベントである大学祭に関しては、「大学祭実行委員は学友会役員及びクラス委員(各クラス2名ずつ選出される)、ボランティア(会員有志)から組織される」となり、アルバム編集委員会の構成委員に関しては、「学友会役員及びクラス委員とは別に各クラスから2名ずつ選出され、任期は前期授業開始日からアルバム編集終了までとする」となり、より学生の意見を反映し、学生生活を豊かに充実して送れるように、学友会活動の一層の活性化をはかりたく思っています。



## (2) 進路指導(進学支援)の強化

### 高等学校

#### ◆2018年度進学実績

大学

#### 【大学】合格者数

(兵庫)甲南女子大(4)、関西国際大(2)、園田学園女子大(2)神戸親和女子大(2)、神戸松蔭女子学院大(2)、神戸学院大(2)、関西看護医療大(1)、神戸女子大(1)、神戸山手大(1)、神戸国際大(1)、神戸芸術工科大(1)、宝塚医療大(1)、武庫川女子大(1)、姫路獨協大(1)、姫路大(1)

(大阪)近畿大(4)、大阪体育大(3)、大阪産業大(3)、追手門学院大(2)、大阪経済法科大(2)、桃山学院大(2)、大阪学院大(1)、桃山教育大(1)、梅花女子大(1)、帝塚山大(1)

(京都)立命館大(1)、京都産業大(2)、龍谷大(1)、同志社女子大(2)、京都造形芸術大(1)

(東京他)国際基督教大(1)、日本大(1)、東海大(1)、東京学芸大(1)、皇學館大(1)、日本体育大(1)、東京女子体育大(1)、山梨学院大(1)、関西看護医療大福岡大(1)

#### 【短期大学】合格者数

夙川学院短期大学(17)、常盤女子短期大学(1)、大阪成蹊短期大学(1)、大手前短期大学(1)、神戸女子短期大学(1)

#### 【専門学校】合格者数

履正社医療スポーツ専門学校(1)、日本工科大学校(1)、大阪動物専門学校(3)、大阪済生会中津看護専門学校(1)、大阪ビューティーアート専門学校(1)、大阪アミューズメント専門学校(1)、大阪ECO動物海洋専門学校(1)、大原簿記専門学校(3)、代々木アニメーション学院(2)、太成学院歯科衛生士専門学校(1)、神戸電子専門学校(3)、神戸医療福祉専門学校(1)、神戸ベルエベル美容専門学校(1)、関西ビューティープロ専門学校(1)、ヒューマンアカデミー(1)、ハーベスト医療福祉専門学校(1)、ESP音楽専門学校(1)、ECC国際外国語専門学校(1)

#### 【就職】内定者数

自衛隊(2)、株式会社ジンジブ(1)、株式会社ケー・エス・ケー(2)、rsc products(1)、MX モバイリング(1)、(株)盛興業(1)、(株)マルアイ(1)、(株)ケイテック西明石工場(1)

## (3) 多様な学生のニーズへの対応

### 短期大学

#### ◆社会人入学生について

社会人入学生については1999年度入学試験から「社会人特別入学試験」を導入し、社会人の受け入れを行っています。入学後の支援として「社会人特別奨学金制度(支給額各30万円)」があります。2018年度は4名を対象者としてうち3名のみ支給しました。

その他の支給奨学金としては、本学支給奨学金(経済支援、成績優秀者)、後援会支給奨学金があります。いまだに景気の好転がみられない中、困窮度の高い学生がおり、それを反映した形で応募者も増えています。今年度、後援会は0名でしたが、経済支援は1名(各25万円)に支給しました。

また、2018年度より離職者等再就職訓練事業(長期高度人材育成コース)の企画提案が採択され、定員5名のところ6名の応募があり、入試を行った結果、4月より5名の受け入れで新たな取り組みをスタートさせました。

## (4) クラブ活動の記録

### 短期大学

在学期間2年間の学生は、限られた修業年限の中で資格及び免許状取得を目指すため、授業が過密となっているためクラブ活動に費やせる時間が限られます。在学期間3年間の長期履修生の学生の中には、重点支援団体の女子空手道部と吹奏楽部に所属して、練習に励んでいます。2018年度のそれぞれの活動結果は次のとおりです。

#### ◆吹奏楽部

ひょうごプラスフェスティバル 2018 参加  
学内ランチコンサート

オープンキャンパスウェルカムコンサート  
 神戸市吹奏楽祭参加  
 神戸マラソン応援演奏  
 大学祭での演奏  
 夙川学院短期大学吹奏楽部第2回コンサート  
 兵庫アンサンブルコンテスト金賞受賞

(打楽器三重奏)



(ランチコンサート)

◆空手道部

関西学生空手道個人選手権大会	出場
西日本大学空手道選手権大会	ベスト8
全日本学生空手道選手権大会(個人戦)	出場
関西学生空手道オープントーナメント	出場
全関西空手道選手権大会	ベスト8
全日大学空手道選手権大会(団体戦)	ベスト16

高等学校

◆空手道部

インターハイ兵庫県予選  
 団体(組手・形 優勝) 個人(組手 優勝 形 3位)  
 KARATE ユースリーグ 2018 ソフィア大会 ジュニア  
 組手-48kg 銀メダル

◆柔道部

グランプリフフホト(シニア国際大会)  
 女子-52kg 級優勝  
 ポーランドカデ国際大会 女子-70kg 級 優勝  
 世界選手権(バクーのアゼルバイジャン)  
 女子-52kg 級優勝

◆茶道部

文化祭での呈茶席、裏千家学校茶道阪神支部茶会

参加。兵庫県総合文化祭での呈茶席手伝い

◆クッキング部

文化祭参加(ケーキ・クッキー・飲み物の販売)  
 お菓子作り・料理など

◆美術・漫画研究部

鉛筆デッサン、色彩構成、立体造形などの課題  
 文化祭にて作品発表、展示、ポストカード販売  
 絵画展鑑賞(校外活動)

◆演劇・映像研究部

週2回練習、創作脚本作成、文化祭にて上演  
 平成 30 年度神戸支部大会努力賞。

◆ESS部

外国人講師による英会話、ゲーム、アクティビティ、  
 コンテスト出場に向けた練習など。

阪神 ESS ユニオン主催シナリオリーディング  
 コンテスト、プレゼンテーションコンテスト出場

◆吹奏楽部

学校行事にて演奏、文化祭にてステージ発表  
 平成 30 年度神戸地区吹奏楽コンクール銀賞  
 神戸マラソンにて応援演奏。

◆ダンス部

文化祭でのステージ発表  
 1年に2回の出張レッスンの受講  
 外部ダンスパフォーマンスの見学

◆フォークソング部

文化祭のステージ出演(平成 30 年度)

◆軽音楽部

新入生歓迎ライブ、文化祭にてステージ発表

◆ボランティア活動部

福祉施設・老人ホーム関係ボランティア  
 募金活動ボランティア(あしなが学生基金・24時間  
 TV等)

◆宗教部

文化祭での展示、キリスト教グッズの販売  
 聖書、キリスト教に関するグッズ作成



## 中学校

### ◆柔道部

マルちゃん杯全国少年柔道大会近畿予選

団体 3位

マルちゃん杯全国少年柔道大会

団体 出場

## 4. その他の主要事業

### (1) 地域との共生

#### 短期大学

地域との共生については、学友会活動の一環である大学祭(夙凜祭(シュクリンサイ))で取り組みました。

2018年度は、ポートアイランドキャンパスでは最後の大学祭となりましたが、学友会を中心にイベント等を企画し、バルーンアートや卒業制作品を並べた「子ども広場」や夙川学院短期大学付属幼稚園園児の作品展示、学生による絵本読み聞かせ大会、子どもが遊べるキッズコーナーなどを行いました。また、こしき岩会(同窓会)や後援会からも出店等で多大なご協力をいただきました。

学生に加えて地域住民や付属幼稚園の園児の参加など多くの方にご来場いただき、盛大なものとなりました。参加者からは、他大学にはない、乳幼児から高齢者まで集う大学祭として、好評を得ました。

今後も長田学舎でもこのような活動を増やし、地域との共生をより活発にしたいと考えています。



### (2) その他

#### 短期大学

### ◆教員免許更新講習講座開催

本講座は現職教員を対象に開講しております。申込みは卒業生だけでなく、他大学の卒業生も受講され、ほぼすべての講座で定員を上回る受講者を得ています。

さらに、2018年度は、かねてより要望の多かった本学にて全領域を受講できる体制を整え、選択領域講座を16講座、選択必修講座を5講座、必修領域講座を2講座申請し、のべ 322名の受講者を受け入れました。(2018年4月文部科学省認定済)



### ◆オーストラリア海外保育実習

2017年よりオーストラリア保育実習ツアーを開始しました。2017年度は初回ということもあり、25名の希望者の中から選抜された8名が、本学教員2名の引率のもとに参加しました。2018年度は、幅広い保育を現場の職員も体験するために、付属幼稚園主任教諭1名が参加、引率教員2名と学生3名の参加となりました。日程は8月10日より16日間、オーストラリア、ゴールドコースト近郊にある2箇所のチャイルドケアセンターで、半日実習7日間、午後からの実習3日間、実習生として参加し、現地の保育を学びました。午前保育の日も、通訳とともに園長や主任保育士へ質問する時間を持って、オーストラリアの初等教育のシステムを学ぶことができました。また、最終日には、全園児に向けて模擬保育を実施、その他、実習園以外の保育園や語学や保育の留学施設、市立図書館の見学など充実した内容でした。宿泊先はコンドミニアムを利用し、自炊をはじめ、夜には模擬保育の準備も行って共同生活を通して貴重な体験をしました。





幼稚園・図書館見学を実施



## Ⅱ. 法人の概要

### 1. 設置校・学部・学科等

設置する学校	開設年度	学部・学科等	摘要
夙川学院短期大学	1965年度	児童教育学科	
夙川学院高等学校	1948年度	全日制(普通科) (美術科) (体育科) (国際教養科)	
夙川学院中学校	1948年度		
夙川学院短期大学 附属幼稚園	1967年度		

## 2. 学院の入学数・在籍者数の状況

(2018年5月1日現在)

学 校	学部・学科等	入学定員 (高・中・幼は 募集定員)	入学数	収容定員	在籍者数
夙川学院短期大学	児童教育学科	170	127	340	313
短期大学合計		170	127	340	313
夙川学院高等学校		200	134	600	405
高等学校合計		200	134	600	405
夙川学院中学校		80	20	240	32
中学校合計		80	20	240	32
夙川学院短期大学附属幼稚園		100	45	260	131
幼稚園合計		100	45	260	131
法人合計		550	326	1,440	881



### 3. 教職員数

(2018年5月1日現在)

#### (1) 短期大学教員数 (専任教員)

学科等	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
児童教育学科	5	3	6	0	0	14
合計	5	3	6	0	0	14

#### (2) 中学高等学校教員数 (専任教員)

区分	教諭	講師	合計
中学校	3	2	5
高等学校	21	9	30
合計	24	11	35

#### (3) 幼稚園教員数 (専任教員)

区分	教諭
短期大学附属幼稚園	10
合計	10

#### (4) 職員数 (専任職員)

区分	職員
短期大学	10
中学高等学校	5
短期大学附属幼稚園	1
法人	3
合計	19

#### 4. 役員・評議員の概要

##### (1) 評議員の概要

(2018年5月1日現在)  
 評議員定数 16～25名  
 評議員現員 17名

氏名	主な現職等
植松 幹雄	法人事務局総務部長
岡崎 公典	理事、短期大学長、教授
樋口 進	理事、院長、学院宗教主事、短期大学教授
三木 麻子	短期大学学科長、教授
荻野 太	理事、中学校・高等学校長
占部 眞清	高等学校同窓会長
大前 都貴子	短期大学同窓会副会長
田中 麻紀子	短期大学講師、短期大学・高等学校同窓生
橘 恵子	高等学校同窓会副会長
松伏 純子	短期大学同窓会長
奥野 耕三	理事
山崎 英穂	理事、日本キリスト教団主恩教会牧師
西 和彦	理事、学校法人須磨学園学園長
西 泰子	理事、学校法人須磨学園理事長、須磨学園中学校長
竹内 敏彦	学校法人須磨学園参与
小川 雅之	学校法人須磨学園総務部長
北崎 智弘	(株)オリエンタルトラスト代表取締役

##### 2018年5月1日以降の評議員の異動

増田 摩子	2018年5月30日 就任
荻野 太	2018年12月31日 辞任
西 和彦	2018年12月31日 辞任
西 泰子	2018年12月31日 辞任
竹内 敏彦	2018年12月31日 辞任
小川 雅之	2018年12月31日 辞任
井本 英子	2019年1月26日 就任
大西 修介	2019年1月26日 就任

(2) 役員概要

(2018年5月1日現在)  
 理事定数 7～12名 監事定数 2名  
 理事現員 8名 監事現員 2名

区分	氏名		主な現職等
理事長	増谷 昇	常 勤	
理事	樋口 進	常 勤	院長、学院宗教主事、教授
理事	荻野 太	常 勤	中学高等学校長
理事	岡崎 公典	常 勤	短期大学長、教授
理事	奥野 耕三	非常勤	
理事	山崎 英穂	非常勤	日本キリスト教団主恩教会牧師
理事	西 和彦	非常勤	学校法人須磨学園学園長
理事	西 泰子	非常勤	学校法人須磨学園理事長、須磨学園中学校長
監事	金澤 敦夫	非常勤	学校法人湊川相野学園短大事務局長
監事	大西 寛文	非常勤	公認会計士(株)、ジーエス・ユアサコーポレーション社外取締役、大阪府監査委員

2018年5月1日以降の理事の異動

理事	荻野 太	常 勤	2018年12月31日 辞任
理事	西 和彦	非常勤	2018年12月31日 辞任
理事	西 泰子	非常勤	2018年12月31日 辞任
理事	北崎 智弘	非常勤	2019年1月26日 就任
理事	三木 麻子	常勤	2019年4月1日 就任